

イメージを豊かにする図画工作科の指導の工夫

～造形活動「スペシャルべんとうを作ろう」～

小出特別支援学校 小学部 相馬 純 大矢孝子

1 児童の実態

- ・ごっこ遊びが好き
- ・感触遊びや粘土が好き
- ・生活経験に差があるため、作りたい食べ物を思い付く児童と思い付かない児童がいる。

2 目指す姿

- ・主体的に取り組む姿
- ・食べ物のイメージをふくらませ、次々と作品を作り出す姿
- ・最後まで作り上げる姿

3 「おべんとう作り」の概要と工夫

概要 ・カラフルな粘土を、丸める・伸ばす・色を組み合わせる・道具を組み合わせる・模様を付ける等の技法を用いて、食べ物を作る。
・ピクニックごっこを通して、自分のおべんとうを紹介したり、友達のお弁当を鑑賞したりする。

食べ物の色を意識するための色分けクイズ



おべんとうのイメージを膨らませるための絵本やヒントボードの提示



新たに習得する技法の実演 (粘土ベラ、ラーメンメーカー、組み合わせなど)



①作ってみたい！
(意欲喚起)

楽しい・面白い
(主体的な態度)

個に応じた指導・支援
ex) 給食メニュー紹介
個別スペース
ヒントカード



おかずカップやお弁当箱、楊枝など身近な用具の提示



②試行錯誤
(想像力、創造力の高まり)

カラフルで触り心地の良い粘土の使用



③できた！
(作る喜び、自信)



4 成果と課題

- 1学期に行った感触遊びの単元の発展として設定したことにより、学びの広がりと連続性が見られた。
- 1つの作品に終息しない、様々な作品の集合体であるおべんとうという題材を用いることにより、創作意欲を持続し、作品を作り続けることができた。
- 児童にとって、興味・関心の高い題材を用いることで、主体的な学びを引き出しイメージがどんどん広がっていく姿が見られた。
- 単元最終日に、ピクニックごっことして作品鑑賞をし合う時間を設けたことにより、最後まで作り上げた喜びと自信を味わい、友達作品にも興味をもつ姿が見られた。
- △個に応じた指導・支援の見直し、開発。

